

令和7年度
災害廃棄物処理対応強化事業企画運営業務
報告書
(地域ワークショップ)

令和8年3月

日本エヌ・ユー・エス株式会社・株式会社東和テクノロジー
共同企業体

目 次

1. 業務の目的及び概要	1
1.1 目的	1
1.2 履行期間	1
1.3 業務概要	1
2. 地域ワークショップ	2
2.1 実施内容	2
2.2 開催報告	6

1. 業務の目的及び概要

1.1 目的

近年、全国的に大雨や地震による災害が頻発しており、青森県（以下、県という。）でも令和3年、令和4年と連続して豪雨災害により、大量の災害廃棄物が発生した。災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理するためには、市町村単体ではなく、県全体での対応力の底上げを図る必要があることから、平時からの住民理解の促進に向けた「地域ワークショップの開催」を通じて、官民連携した実践的能力の向上及び災害廃棄物処理に係る初動対応の強化を図るものである。

1.2 履行期間

契約締結日から令和8年3月13日（金）まで

1.3 業務概要

開催概要と開催案内（チラシ）は表 1-1 に示すとおりである。

表 1-1 開催概要と開催案内（チラシ）【東北町】

開催自治体	東北町	
開催場所	小川原湖交流センター宝湖館 (東北町大字上野南谷地 131)	
開催日時	令和7年11月22日（土）13:00～16:00	
参加人数	21名 (青森県職員2名、東北町職員4名、一般参加13名、見学2名)	
タイトル	災害廃棄物ワークショップ in 東北町 災害のあとに残るもの ～いまできる 災害への備え～	
開催内容	13:00～ 基本講座 「災害がおこるとおきること 災害廃棄物の基本と地域連携の必要性」 公益財団法人廃棄物・3R 研究財団 中山育美 氏 14:00～ ワークショップ ～災害ごみを片付けよう～	

*なお、令和8年1月31日（土）に五所川原市でのワークショップを予定したが、大雪のため中止となった。五所川原市における開催概要と開催案内（チラシ）は表 1-2 に示すとおりである。

表 1-2 開催概要と開催案内（チラシ）【五所川原市】

開催自治体	五所川原市
開催場所	五所川原市民学習センター (五所川原市字一ツ谷 503 番地 5)
開催日時	令和 8 年 1 月 31 日 (土) 13:00~16:00
参加人数	—
タイトル	災害廃棄物ワークショップ in 東北町 災害のあとに残るもの ～いまできる 災害への備え～
開催内容	13:00～ 基本講座 「災害がおこるとおきること ～すみやかな復興にむけて私たちにできること～」 公益財団法人廃棄物・3R 研究財団 中山育美 氏 14:00～ ワークショップ ～災害ごみを片付けよう～



2. 地域ワークショップ

2.1 実施内容

地域ワークショップのタイムテーブルは表 2-1 に示すとおりであり、基本講座とワークショップの2部制として実施した。

ワークショップ終了後には参加者アンケートを実施した。

表 2-1 タイムテーブル

時間	実施項目	担当、内容
13:00	開催挨拶・趣旨説明	青森県環境エネルギー部資源循環推進課 鈴木 将司 総括主幹
13:05	基本講座 1 (30分) (質疑応答 10分含む)	「災害がおこるとおきること ～すみやかな復興にむけて わたしたちにできること～」 廃棄物・3R 研究財団 企画部 中山 育美 担当部長
13:35	基本講座 2 (15分) (質疑応答 5分含む)	東北町 保健衛生課 環境衛生係 中野渡 正也 主任主査 「災害廃棄物処理計画のポイント解説」
13:50	休憩 (10分)	—
14:00	ワークショップ(100分) 災害廃棄物ワーク ショップ 災害のあとに残るもの ～いまできる 災害への備え～	(14:00) 趣旨説明 (14:05) 自己紹介・アイスブレイク (14:20) 災害ごみワークショップ (14:20～14:35) 災害がおこるとおきること (14:35～14:50) 災害廃棄物を処理するために (14:50～15:10) 意見交換・全体発表 (15:10～15:30) 災害前にできること (意見交換) (15:30～15:40) 全体発表 (15:40) 有識者による講評
15:55	閉会挨拶	東北町保健衛生課 和田 俊光 課長

(1) 基本講座

地域ワークショップの参加者には被災経験がなく、災害廃棄物を知らない、または災害廃棄物の処理経験がない方の参加が想定されたため、災害廃棄物の基礎と東北町における取組を紹介する基本講座を実施した。

基本講座①では、災害がおこるとどんなことがおきるのか、災害廃棄物の基本とその処理方法、および事前の備えについて、公益財団法人廃棄物・3R 研究財団 企画部 中山育美担当部長に解説いただいた。

基本講座②では、令和7年5月に策定された「東北町災害廃棄物処理計画」について、「知ってもらうこと」、「活用してもらうこと」を目的として、東北町保健衛生課より計画のポイントの解説をいただいた。

(2) ワークショップ



参加者は、今日初めて災害廃棄物を知った方も多いと想定されたため、災害廃棄物とその処理方法を知り発災時の円滑な処理につなげることを目的として、仮置場における分別ルールを学ぶワークショップを実施した。ワークショップでは、参加者を3つのグループに分け、各グループに仮置場レイアウト図、ミニチュアごみ、筆記用具

を設置した。

なお、各グループには議論の進行役としてリーダー1名を配置した。

ワークショップの実施内容は表 2-2 に示すとおりである。

表 2-2 ワークショップの実施内容

項目	内容
自己紹介	グループ内で自己紹介
セッション1 災害がおこるとおきる こと	災害がおこるとどんなことがお きるか、自宅をもとに考える。 ミニチュアごみを確認する。 さらに、自宅から出る可能性の あるごみを想像し、スポンジを ごみに見立ててミニチュアごみ を作成する。 
セッション2 災害廃棄物を処理する ために	模造紙に再現した仮置場にごみ を持ち込むことを想定して、軽 トラックに見立てたカゴにミニ チュアごみを積み込み、仮置場 に持ち込む。 ・効率的に持ち込むには？ 持ち込みワークショップののちに、意見交換を行う。 【意見交換のテーマ】 ① 仮置場にごみを持ち込む時に苦労したこと ② 仮置場にごみを持ち込む際に工夫したこと ③ 仮置場について、事前に知っておきたいこと 
セッション3 災害前にできること	災害廃棄物を減らすために、また円滑に処理するために、普段から できることについて意見交換を行う。 【意見交換のテーマ】 ① ごみを減らすためにできること ② 地域でできること

(3) アンケートの実施

ワークショップ終了後に、図 2-1 のとおり参加者にアンケートを実施した。


アンケートでは、災害廃棄物と処理方法の理解度、ワークショップの満足度の他に、ご家庭での課題や知りたい情報についての設問を設けた。

災害廃棄物ワークショップ in 東北町 アンケート	
参加者氏名： _____	
皆様のご回答は、今後、地域の皆様向けの災害廃棄物リーフレットを作成する際に参考とさせていただきます。ぜひ、ご意見やお考えをご記載いただけますと幸いです。	
問1 基本講座1では、災害廃棄物について理解することができましたか。 1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全くそう思わない (理由： _____)	
問2 基本講座2では、町の災害廃棄物に対する取組について理解できましたが、 1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全くそう思わない (理由： _____)	
問3 本日は3つのテーマで片付けごみに関するワークショップを行いました。災害廃棄物への対応や備えについて理解を深めることができましたか。 1. とてもそう思う 2. そう思う 3. そう思わない 4. 全くそう思わない (理由： _____)	
問4 災害廃棄物ワークショップ全体を通しての満足度はいかがですか。 1. とても満足 2. 満足 3. どちらともいえない 4. 不満 5. とても不満 (理由： _____)	
問5 ワークショップを通じて、片付けごみの運搬や仮置場について、考えたことや課題と感じたことがあれば、記載してください。 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right;">(裏面あり)</p>	
	問6 実際に災害が発生した場合に、片付けごみの取扱いについて、ご自身やご家族、地域で心配されること、懸念されることがあればご記載ください。 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>
	問7 平時の備えを行うにあたり、片付けごみの取扱いについて、特に知りたい情報や必要と考えられる情報をご記載ください。 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>
	問8 本日の内容・運営について、ご意見等がございましたらご記載ください。 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p style="text-align: right;">本日はご参加ありがとうございました。</p>

図 2-1 アンケート

2.2 開催報告

(1) 開会あいさつ

青森県環境エネルギー部資源循環推進課 鈴木 将司 総括主幹	
<p>近年全国各地でさまざまな自然災害が頻発しております。本県でも令和3年、令和4年の大雨による浸水被害で多くの災害廃棄物が発生した次第です。地域の迅速な復旧・復興のためには災害廃棄物を円滑に処理する必要があります。そのためには行政だけではなく、地域に生活の方々、廃棄物処理に係る全ての方々の協力が欠かせません。基本講座では災害廃棄物の基本をご講演いただくとともに、東北町からは本年策定された災害廃棄物処理計画について解説していただきます。そのあとに、それぞれの立場ご経験から災害廃棄物処理について考え、意見を交わし、お互いに理解を深めていただくワークショップを開催いたします。ご参加の皆様には活発な御議論をいただき、地域の災害廃棄物の円滑な処理に向けて、ご理解や考えを深めていただくきっかけとなることをご期待申し上げます。</p>	

(2) 基本講座

基本講座の実施状況は、写真 2-1 に示すとおりである。



基本講座 1

「災害がおこるとおきること
～すみやかな復興にむけて わたしたちに
できること～」

基本講座 2

「災害廃棄物処理計画のポイント解説」

写真 2-1 基本講座

(3) ワークショップ

ワークショップの実施状況は、写真 2-2 に示すとおりである。



写真 2-2 ワークショップ

【セッション1 災害がおこるとおきること】

自宅から出るごみの検討で作成されたミニチュアごみは写真 2-3 のとおりである。

ベッド、ピアノ、仏壇、洗濯機といった大型のごみのほか、掃除機、こたつ、ドライヤー等の家電、農薬や灯油・軽油といった危険物、ガラスや植木鉢、調味料などの具体的な生活用品のほか、高齢者用の電動いすを作成したグループもあり、実施に普段の生活で使用しているものが作成されていた。また、家庭用の除雪機を作成したグループがあるなど、地域性を反映したごみが作成された。

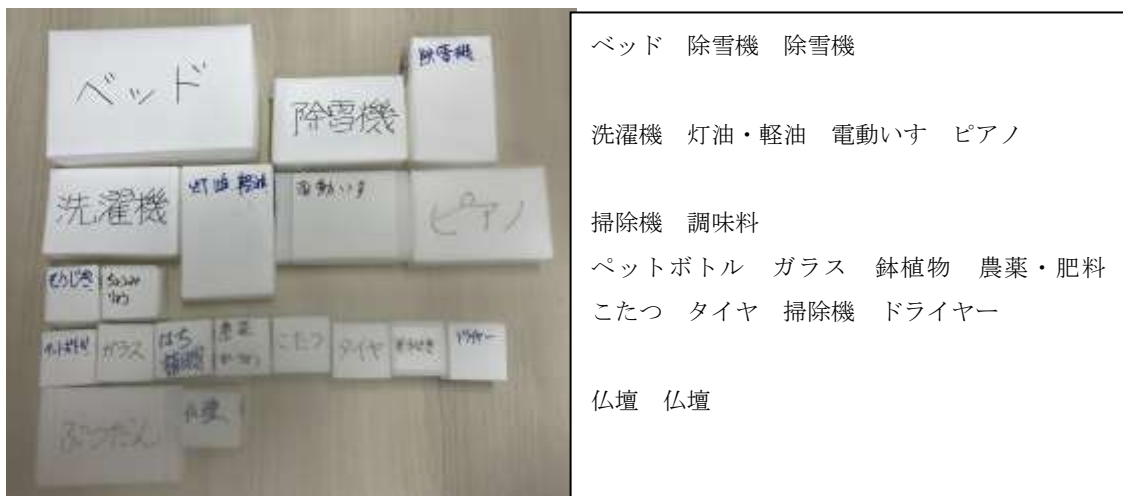


写真 2-3 参加者作成のミニチュアごみ

【セッション2 災害廃棄物を処理するために】

仮置場への搬入では、軽トラックにごみを積み込む方法や仮置場への持ち込み、ごみの分別について、グループで活発な議論があった。軽トラックにごみを積み込む際には、仮置場のレイアウトを考慮した積み込みの順番、位置を工夫したり、積み込む前に自宅の庭で分別することを想定して、あらかじめ分別してから積み込むグループもあった。また、ミニチュアごみに「おもちゃ」を入れていたところ、「思い出の品」として、ごみとして捨てないこととしたグループも見られた。また被災経験のある参加者は畳の運搬方法について、被災当時の積み込み状況を再現していた。

セッション2でのグループ討議の結果は表 2-3 に示すとおりである。

「①仮置場にごみを持ち込む時に苦労したこと」では、分別区分の判断、積み込み方法が苦労した点として挙げられた。そのため、「②仮置場にごみを持ち込む際に工夫したこと」では、積み込む前に分別をしておく、仮置場の配置順（荷下ろし順）を考慮して積み込む等、分別や積み込み方に工夫をしたとの回答があった。

「③仮置場について、事前に知っておきたいこと」では、ごみの分別区分や、持ち込めないものなどごみの区分に関する情報のほか、良い積み込み方の例や、仮置場までの搬入路の広さなどといった意見があった。

表 2-3 セッション2 グループ討議

① 仮置場にごみを 持ち込む時に苦 労したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別の判断が難しい、一人では悩む ・何に分別されるのか悩むものがある（油など） ・積み込み方法 ・軽トラックの確保 ・一人では重いものは積み込めない
② 仮置場にごみを 持ち込む際に工 夫したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・積み込む前に分別をした ・品目に分けて搬入 ・畳で軽トラックの荷台に壁を作って積み込み量を増やす (壁に使うので畳は最後まで捨てない) ・大型のものから先に処分 ・仮置場の配置順（荷下ろしの順番）に積み込む ・より多くのを積み込む工夫が必要 ・大きなトラックや重機で一斉回収
③ 仮置場について、 事前に知ってお きたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノや除雪機など特大ごみの搬出について ・搬入路の大きさ ・ごみの分別区分 ・良い積み込み方の例 ・仮置場に持ち込んではいけないもの

*似ている意見はまとめて記載。

【セッション3 災害前にできること】

セッション3のグループ討議の結果は表 2-4 に示すとおりである。

「①ごみを減らすためにできること」では、断捨離や不用品リサイクルなどで不用品を減らしておくことをあげたグループが多かった。

「②地域でできること」では、災害時の車両の確保についての対策、高齢者の搬出についての対策、および地域での助け合いについての意見が挙げられた。特に町内会の地域での役割に対する意見が挙げられた。

表 2-4 セッション3 グループ討議

①ごみを減らすためにできること	<ul style="list-style-type: none">・普段からごみの種類・分別を考えておく（分別が必要な電池の有無など）・断捨離・フリーマーケットやリサイクルで不用品を活用
②地域でできること	<ul style="list-style-type: none">・町内清掃デーのように地域で軽トラックを借り上げ・災害時の車提供者（所有者）を町内で把握しておく・大型トラックを所有している人の把握・高齢者のごみを分別して持って行く・町内会等で高齢者のごみを運搬する・高齢者を訪問し、状況を把握しておく・廃品回収・町内会などでチーム作り・災害ボランティアセンターの周知・建設業協会など関係団体との連携協力・日頃の手助け・災害対策の事前学習・ごみの分別表を作成

*似ている意見はまとめて記載。

(4) 講評

ワークショップ全体の講評を中山氏よりいただいた。

廃棄物・3R研究財団 中山育美 企画部担当部長

高齢者、ひとり暮らし世帯など大変になるので、ボランティアの活用もぜひ考えるとよい。軽トラックがない世帯もあることから、地域で持ち寄って運んだ地域もある。ぜひ地域での協力体制をとっておくとよい。また、最近仮置場の訓練を行政、住民、業者が参加して実施している地域もある。防災訓練で命を守る行動を学んだのちに、そのあとどうするか、仮置場や災害廃棄物のことも一緒に学ぶ機会を設けるとよい。

また、高齢者はボランティア等に助けを求めることをしない方もいる。高齢者への声掛けも大切である。

(5) 閉会あいさつ

最後に、東北町保健衛生課和田課長より閉会の挨拶をいただいた。

東北町保健衛生課 和田 俊光 課長

東北町では大きな災害は発生していないが、災害はいつ起こるか分からないので、本日のワークショップで学んだことを地域や職場等で広く周知いただけたらと思います。

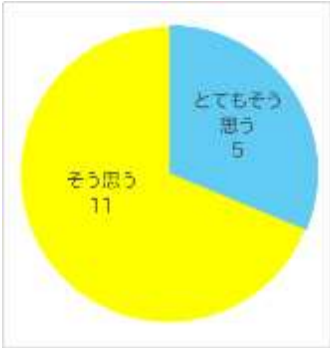
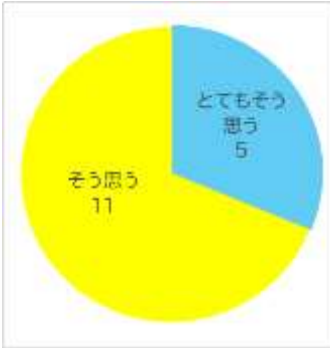
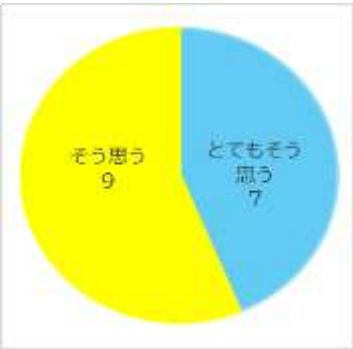
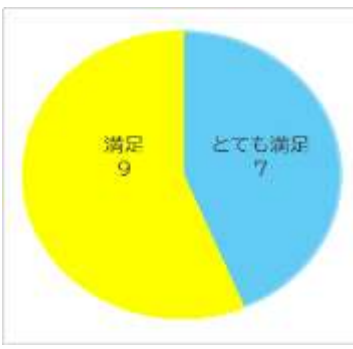
ポイント解説した東北町の災害廃棄物処理計画についてもぜひじっくり見ていただきますようお願いいたします。



(6) アンケート

アンケートの結果は表 2-5 に示すとおりである。

表 2-5 アンケート結果

<p>1. 基本講座 1 では災害廃棄物について理解することができたか。</p>  <table border="1"><thead><tr><th>回答</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>そう思う</td><td>11</td></tr><tr><td>とてもそう思う</td><td>5</td></tr></tbody></table> <p>【回答理由】</p> <ul style="list-style-type: none">・思ったより多くのごみが出ることに驚いた・分別区分などを知ることができたから	回答	人数	そう思う	11	とてもそう思う	5	<p>2. 基本講座 2 では、町の災害廃棄物処理に対する取組について理解できたか。</p>  <table border="1"><thead><tr><th>回答</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>そう思う</td><td>11</td></tr><tr><td>とてもそう思う</td><td>5</td></tr></tbody></table> <p>【回答理由】</p> <ul style="list-style-type: none">・根本ができているので臨機応変に対応できると思う・ごみの種類が多いなど普段から意識しておくことが重要と感じた	回答	人数	そう思う	11	とてもそう思う	5
回答	人数												
そう思う	11												
とてもそう思う	5												
回答	人数												
そう思う	11												
とてもそう思う	5												
<p>3. 災害廃棄物への対応や備えについて理解を深めることができたか。</p>  <table border="1"><thead><tr><th>回答</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>そう思う</td><td>9</td></tr><tr><td>とてもそう思う</td><td>7</td></tr></tbody></table> <p>【回答理由】</p> <ul style="list-style-type: none">・グループでの話し合い、各グループの発表を聞いて大変勉強になった・ごみの分別にもいろいろな考え方があることを知ることができた	回答	人数	そう思う	9	とてもそう思う	7	<p>4. ワークショップの満足度</p>  <table border="1"><thead><tr><th>回答</th><th>人数</th></tr></thead><tbody><tr><td>満足</td><td>9</td></tr><tr><td>とても満足</td><td>7</td></tr></tbody></table> <p>【回答理由】</p> <ul style="list-style-type: none">・いい機会になった・グループ意見交換が大変参考になった・災害時の対応のしかたが良くわかる	回答	人数	満足	9	とても満足	7
回答	人数												
そう思う	9												
とてもそう思う	7												
回答	人数												
満足	9												
とても満足	7												

<p>5. 片付けごみの運搬や仮置場について考えたこと、課題と感じたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型トラックや重機で畳や家電などの大型ごみを回収に回ること。積み降ろし作業の助っ人が必要 ・仮置場に指示役がいると良い ・トラックがない時にごみ（重量物）を運ぶ時の協力 ・町内会などでコミュニケーションを取り、災害時に活用する ・（ミニチュアごみではなく）実際に体験したほうがよい ・分別してから搬入する ・日頃からの周知、広報 ・日頃からの準備 ・高齢世帯や車両のない世帯のごみの搬出 ・区域内全体での情報、意識の共有は絶対に必要
<p>6. 片付けごみの取扱いについて、ご自身やご家族、地域で心配されること、懸念されること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを強くしておく必要性を感じた ・ごみの分別のしかた ・家族で片付けのレクなどしておく ・自力でできない力仕事が多い、サポートの周知 ・自分達の仕事関係や仕事先の片付けもあるため、融通の利く時間帯の収集時間をお願いしたい ・ごみの運搬がスムーズにいくか ・家族が少ないため、人手不足になること ・自分が住む地域ではトラック等を持つ世帯がほとんどないため運搬方法の問題がある ・高齢世帯へのサポート
<p>7. 片付けごみの取扱いについて、特に知りたい情報や必要と考えられる情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアについて ・ごみの分別
<p>8. 内容・運営についてのご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい内容だった ・町内だよりなどでの周知が必要 ・とても勉強になった

*似ている意見はまとめて記載。

(7) 住民啓発用パンフレット

ワークショップでの検討結果やアンケート結果より、「災害廃棄物」を知らない住民に、災害廃棄物とは何か、発生した災害廃棄物をどのように処理するのかを知ってもらうことを目的に、図 2-2 のとおりパンフレットを作成した。パンフレットはワークショップやアンケートで「知りたいこと」として多く挙がっていた「分別」に着目し、仮置場の設置や分別ルールについて紹介する内容とした。また、災害廃棄物を減らす工夫や円滑な処理のためにご理解をいただきたい点についても解説を掲載した。



図 2-2 住民啓発用パンフレット